



「おおっ、深い！」
岩手県花巻市に湯煙あがる鉛(なまり)温泉へ出かけます。
鉛の地名は、かつてこのあたりで金を掘っていたのですが、役所には鉛を掘っていると報告していたことから来ているんだとか。
周辺には10を超す温泉が並び、「花巻南温泉」を名乗っています。中でもこの鉛温泉は、一軒宿の藤三(ふじぞ)旅館のみの静かな温泉地です。
そしてこの宿の最大の名物が、立ったまま入浴する珍しいお風呂「白猿の湯」です。水深が約1.5メートルあり、身長173センチの僕でも湯船に

入ると、胸のあたりまで湯面が来ます。小柄な女性などは肩までとっぷりとつかえる感じ
です。
立ったまま入浴すると水圧が全身にかり、足先に滲っていた血液が押し戻されて、むくみ解消に効果があるとされています。血行促進効果もたっぷりで、10分ほど入浴しましたが湯上がりは30分近くも汗が引けません。
泉質はアルカリ性単純温泉、透き通るような湯です。源泉温度は約42度で、もちろん源泉かけ流し。鮮度抜群の温泉をたっぷり満喫しました。白猿の湯は混浴ですが、女性専用時間帯も設けられています。
藤三旅館には他にも三つのお風呂があって湯巡りも楽しめます。清潔感あふれる「湯治部」や、全室露天風呂付きの別邸「十三月」もあり、ニーズに合わせて宿選びを

鉛温泉

水深125センチ

とっぷり立ったまま



高い吹き抜け天井に開放感があふれる白猿の湯



唐破風(からはる)を頂く豪壮な藤三旅館の玄関

もあります。市内には賢治関連の見所が点在しています。その一つ、宮沢賢治記念館では「銀河鉄道の夜」の原稿や愛用品のゼロ(チェロ)など展示され、ビデオやスライドなどで賢治の世界を学ぶことができます。
記念館南側には、作品名から名付けられた「ボランの広場」があって、賢治が残した設計図から再現された日時計花壇と南料(なんしや)花壇を見ることが出来ます。まだ花を育てて売る農業がなかった時代、リヤカーで花を配って歩いていたという賢治の先見性に驚く見どころでした。
豊龍由多加

宮沢賢治の故郷 岩手・花巻



四季折々の花が咲くボランの広場 (宮沢賢治記念館提供)

ことも可能です。
宿のもてなしの心も見事。公共のトイレを4回使いましたが、いつもスリッパが整然と並んでいました。ホスピタリティー(もてなし)というのはこういうところこそ表れるものです。
極上の温泉を楽しんだ後は、豊沢川を眼下に望む客室

で、岩手牛しゃぶしゃぶをメインとした夕食を味わいます。盛り付けも美しく、山あいの一軒宿とは思えないほど洗練されています。そして本当においしい！
ところで花巻市といえば、「雨ニモマケズ」の詩や「注文の多い料理店」などの童話で知られる宮沢賢治の故郷で



おとわり 新型コロナウイルスの感染が続いています。当分の間、紙面でお楽しみください。

【交通】 藤三旅館は、東北新幹線新花巻駅から無料シャトルバス(要確認)で55分。車は東北自動車道花巻南ICから県道299号・12号・297号で約20分。
宮沢賢治記念館は、新花巻駅からタクシーで5分。車は釜石自動車道花巻空港ICから県道286号、国道456号で10分。
【問い合わせ】 花巻観光協会 ☎0198(29)4522